

平成 29 年度 就労準備支援事業 実績報告

平成 29 年 12 月末現在

<事業の概要>

生活リズムが崩れている，社会との関わりに不安がある，就労意欲が乏しいなどの理由で，就労に向けた準備が整っていない人に対して，就労に向けた準備としての基礎能力の形成からの支援を計画的かつ一貫して実施します。

1 支援実績

<支援プラン作成件数と内容>

就労準備支援プログラム(計画書・評価書)は対象者 2 人にそれぞれ 2 件ずつ，計 4 件を作成しました。計画内容については，月次の評価により，適宜見直しを行いました。

また，平成 27 年度からの対象者(就労準備支援事業未利用者)に継続して支援をすることで，平成 28 年度に就労準備支援事業を利用することとなり，今年度終結となったケースもありました。

【図表 1 支援状況】

(年齢 性別)	支援期間	来所面談	電話 メール	自宅訪問	他機関同行等	その他
H27-D (40 代 男性)	12 か月間	0	13	1	2	18
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 人世帯 ・ 経路：関係機関(母親の担当ケアマネジャー)からの紹介 ・ 就労経験はあるが，慢性疾患発症のため退職後無職 ・ 主訴：働いて経済的に自立したいが，体力的に「働く」自信がない <p>[支援経過] 無職の期間が長いため，規則正しい生活を送ることを最初の目標にした。しかし，生活リズムが整う頃になると，定期的な入院が必要となり，目標を達成することが難しい状態であったが，本人はせめて医療費分だけでも収入を得たいと希望した。心療内科通院が続いたため，精神障害者保健福祉手帳による福祉サービスを紹介し，就労継続支援 A 型事業所を利用することになった。(H29 年 5 月終結) 現在も職場定着支援を継続中。</p>					
H29-A (20 代 男性)	7 か月間	35	24	0	2	53
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 人世帯 ・ 経路：叔母が『アサガオ』，総合相談窓口相談 ・ 高校卒業後，約 1 年間ひきこもり状態であり，就労経験無し ・ 主訴：困っていることはないが，アルバイトから始めたい <p>[支援経過] 初めは面談での返答も単語の状態であった。来所面談と本人希望のパソコン練習を重ねながらグループセッションや面接練習に参加することで集団でのコミュニケーションもとれるようになってきた。しかし，遅刻や連絡無しで欠席の状態も続いている。社会福祉協議会のボランティアに支援担当者も一緒に参加するなど一体的な支援を行い，ゆっくりではあるがステップアップにつながっている。</p>					

【図表 2 就労準備支援事業終結後 継続支援状況】

就労準備支援事業利用終結後支援状況

(年齢 性別)	来所面談	電話 メール	自宅訪問	他機関同行等	その他	備考
H27-A (50代 男性)	4	0	0	0	1	他市へ転居(A型事業所利用)
H27-B (40代 男性)	0	1	0	0	0	就労継続支援
H27-C (30代 女性)	0	2	0	0	1	手帳取得後阪神南就ポツへ
H27-D (40代 男性)	3	7	1	7	30	就労継続支援
H28-E (20代 男性)	17	45	0	13	18	就労継続支援

※A型事業所：就労継続支援A型事業所

※阪神南就ポツ：阪神南障がい者就業・生活支援センター

【図表 3-1 就労準備支援事業未利用者 支援状況】

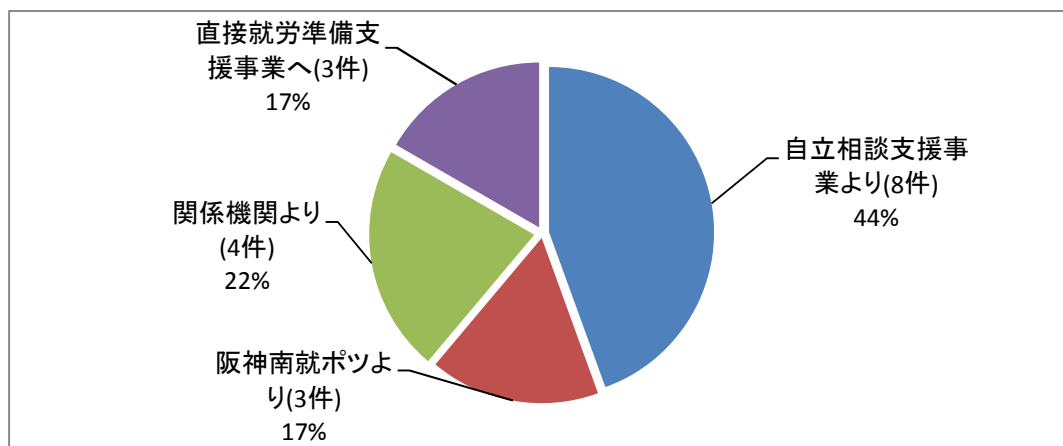
就労準備支援事業利用には至らない人の支援状況

(年齢 性別)	来所面談	電話 メール	自宅訪問	他機関同行等	その他	備考
H27-F (60代 男性)	0	0	1	0	0	転職後退職 老齢年金受給中
H27-H (40代 男性)	2	0	0	0	3	A型事業所利用→生保受給中
H27-I (40代 男性)	0	14	1	0	0	A型事業所継続支援
H27-K (30代 男性)	1	0	0	0	2	自立相談支援継続
H28-J (40代 男性)	6	19	3	9	37	家族への対応→来所
H29-B (40代 男性)	1	0	0	0	1	双極性障害(一般就労希望)
H29-C (20代 男性)	32	25	0	1	54	就労への支援中
H29-D (40代 男性)	2	3	0	0	5	姉・母来所→障がい相談へ
H29-E (40代 男性)	1	0	0	0	2	自立相談面談同席
H29-F (20代 男性)	1	0	0	0	0	阪神南就・面談同席
H29-G (40代 男性)	1	0	0	0	0	父来所→総合相談へ
H29-H (30代 男性)	3	0	0	0	4	自立相談面談同席：就労相談
H29-I (40代 男性)	2	2	0	0	10	高齢者生活支援センターより
H29-J (50代 男性)	2	2	0	0	0	妻来所
H29-K (50代 男性)	1	0	0	0	2	自立相談面談同席：就労相談
H29-L (20代 女性)	0	0	0	0	1	保健センターより
H29-M (30代 男性)	0	0	1	1	5	三田谷治療教育院相談より
H29-N (40代 男性)	1	0	0	0	1	自立相談面談同席(母来所)

※A型事業所：就労継続支援A型事業所

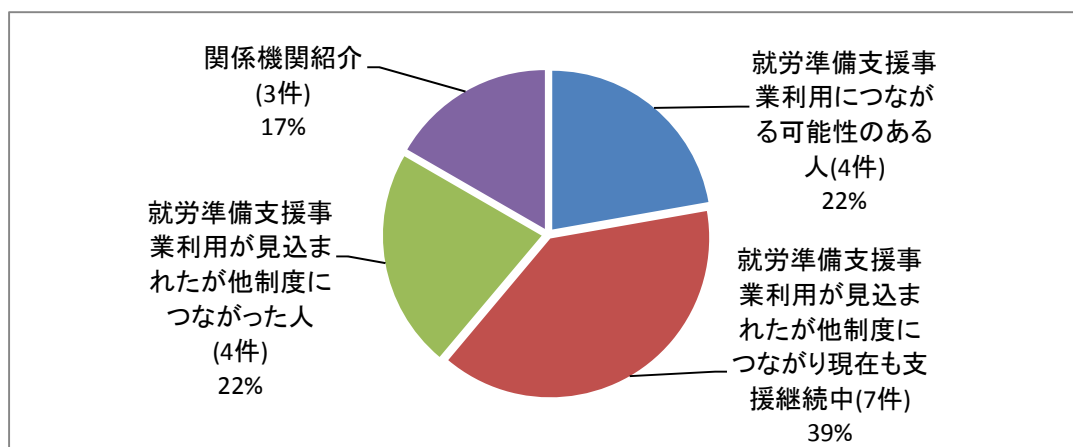
※生保：生活保護

【図表 3-2】 就労準備支援事業の窓口につながった経路（全 18 件）



※阪神南就ポツ：阪神南障がい者就業・生活支援センター

【図表 3-3】 就労準備支援事業の窓口につながった対象者の分類（全 18 件）



2 成果と課題

(1) 成果

① 連携・周知について

総合相談窓口のみならず、関係機関との連携を強め、潜在的な対象者の把握に努めた結果、自立相談支援事業、阪神南障がい者就業・生活支援センターだけでなく、高齢者生活支援センターや保健センターから紹介の相談もありました。

② プログラムの多様化について

グループセッションに外部より出張講座を取り入れるなど、プログラムの多様化を図るとともに、参加者の居場所にもなるよう目指したところ、参加人数が徐々に増加しています。就労準備支援事業利用者も参加することで、回を重ねるごとに、他者とのコミュニケーションがスムーズになってきている様子がうかがえます。

【図表 4 グループセッション プログラム（前期・後期とも全 10 回）】

回数	テーマ	詳細
1	働く意義	仕事とは・働くイメージ
2, 3	自己理解	① 障がいについて 得意不得意 自分の強み ② 自己分析と他己分析
4	職業選択	ジョブマッチング 進路選択 自分らしい進路
5	仕事に向き合う姿勢・心構え	企業が求める人材とは 大切な姿勢とは
6	ビジネスマナー	あいさつ 言葉遣い 身だしなみ 立ち居振る舞い
7, 8	職場対人スキル	① 報告・連絡・相談 組織の仕組み ② コミュニケーションの取り方 伝え方 人との距離感 職場での雑談
9, 10	問題解決スキル	① 問題解決の方法 ② その場に応じた対応の仕方

※前期：職場対人スキル①出張講座〈報告・連絡・相談〉（第 7 回目として実施）

後期：ビジネスマナー②出張講座〈職場での同僚との関係作り〉（第 6 回目後に別途実施）

（2）課題

① 就労準備支援事業の利用に向けた支援について

自立という観点からのステップアップを図っていますが、自己肯定感、自尊感情を徐々に回復するためには時間がかかる場合があり、期間が定められている就労準備支援事業につなぐための準備支援が必要なケースもあります。

② 潜在的な利用者について

潜在的な対象者の把握に努めた結果、高齢の親からの相談によりひきこもりの問題が見えてきました。今後、その家族の相談なども含めて、社会的孤立状態にある人の支援についても考えていく必要があります。